

Go for it !!

<https://toyono-jinikyo.com/>

2

令和 6 年度 (2024 年度)
5 年経験者研修
(中堅教諭等資質向上研修)

ポイントは『誰に?』

11 月 14 日 (木)、19 日 (火) の 5 年経験者研修第 3 回では、トライアルシートを基にした実践報告を行います。実践報告の目的は、ご自身の実践を言語化する (書く、話す) ことで、改めて成果や次に向けての課題を整理し、振り返ることにあります。言語化とは、ただ頭の中で考えていることを文字化するだけでは不十分で、相手に伝わるように考えながら行うことで意味のあるものになります。ポイントは誰に伝えるのかという点を明確にすることです。例えば、今回の 5 年経験者研修第 3 回の場合では、誰に伝えるのかということ・・・

- 【豊能地区で採用後の経験年数は 5 年】
- 【必ずしも同期・同世代というわけではない】
- 【『所属市町』『所属校』『校種』は様々である】

という特徴があります。ここから考えると、経験年数 5 年くらいで起こる出来事、例えば『異動』や『後輩』に関わる内容などは、場合によっては多くを語らなくても共感が得られやすい内容と考えられます。逆に所属市町や所属校、それぞれの校種ならではの内容は、詳しく『前提』や『事の経緯』を説明しないと理解してもらえません。つまり、自分の中で『当たり前』になっていることや、『前提』となっていることを、誰に伝えるのかを意識して詳しく言語化することで自ら問い直すことができるのです。

皆さんはすでにトライアルシートが完成している状態なので、研修当日の実践報告をする際に意識していただければと思います。

自分には見えていないが、他者には見えているところ

5 年経験者研修のみならず、豊能地区の共通研修の実践報告では、意図的に『質問』の時間を設けています。実践報告の際に、ご自身で報告できる部分は実践の中の『自分には見えている (意識している) 部分』 [下図実線部分参照] のみです。しかし、実践の中には『自分には見えていない (意識していない) 部分』 [下図破線部分参照] もあります。他者からの質問を通して、この自分には見えていない部分に意識が向くことがあります。多くの場合、無意識の部分には、その人の大切にしている価値観が表れます。他者からの質問を通して、ご自身が実践を行う上で大切にしていることを再確認できれば、より良い実践報告となるとと思います。

